

2021 年度第 5 回 外洋常任委員会 議事録

開催日；2021 年 12 月 3 日（金）18:00～20:00

会議の場所及び方法：オリンピックスクエア・スポーツマンクラブ

WEB 会議（Zoom）の併用

出席者：（理事）

- ・会場出席

馬場益弘 会長、中澤信夫 副会長、中村隆夫 副会長、大村雅一 常務理事、
望月宣武 常務理事、菊池邦仁 理事、安田大助 理事

- ・WEB 出席

平松隆 理事、橘田佳音利 理事、新田肇 理事、宇都光伸 理事、岩瀬善貞 理事

（委員会関係）

- ・会場出席

日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員会委員長

- ・WEB 出席

川合紀行 外洋計測委員長、平出篤志 外洋安全委員会（代理）、
松石万希子 レース マネジメント委員会外洋小委員会（代理）、
船澤泰隆 国際委員会外洋小委員会委員長、
金子純代 キールボート強化委員長、服部好彦 ジャパンカップ委員会委員長、
坂谷定生 参与、鈴木一行 オリンピック外洋小委員会委員

鈴木保夫 外洋事務局長、（会場）

小山悟 外洋艇登録事務局長（WEB）

記録者 鈴木保夫

大村常務理事の進行で 18：00 より開始した。

- ・中澤副会長開会挨拶

久々にハイブリッドで開催します。沢山議題があるが、限られた時間の中で活発な意見をお願いします。

- ・馬場会長挨拶

9 月 4 日の理事会で河野会長の後を継いで会長に指名されました。

強いセーリング連盟、輝く連盟にしたい。オリンピックで勝ち、セーリングを生涯スポーツにしていきたいと考えています。

皆さんの意見を聞いて、強い連盟にしたいので宜しくお願いします。

議事

① 組織整備：通信委員会、技術委員会

大村：資料の通り通信委員会設置の提案を理事会にした。

委員については外洋安全委員会からも 2 名出して頂くことになっている。

2 月の理事会で委員のリストを提出する。

JSAF 運営規則の改定に合わせ、外洋計測委員会の中に技術小委員会を置いた。

他の小委員会も同様に外洋常任委員会が扱う事項の中に明記する。

これらは 2 月の理事会で審議される。

② JSAF 理事・監事 改選関係

大村常務理事より、理事候補推薦手続き及びスケジュールが説明された。

当選決定方式が改正され、女性と男性候補それぞれに投票することになり、加盟団体に割り振られる投票数が男女それぞれに割り振られ、2020 年度末の会員数に応じて投票数が割り振られることが説明された。

③ World Sailing 総会等関係情報

望月：6 月 10 日の IOC の総会でパリのオリンピックでは外洋が無くなったので、2028 年の大会を目指すことになる。

今年の年次総会で大きな話題となったのは、リー会長から中国にワールドセーリングの支部を作ることが提案されたが大差で否決された。

ワールドセーリングではこれから 1 年かけて組織改革をやることになっている。オリンピックのことはヨーロッパが決めるという流れに戻そうとする動きに対して、アジアが意見を通していくことになる。

鈴木（一）：オセアニックコミッティーとスペシャルレギュレーションの会議を傍聴した。ORC は小林氏が出席した。まだミニッツが出ていないので出たら報告する。

IRC と ORC は夫々の数字を発表したが、オセアニックコミッティーの中でも仲が悪い状況が続いている。

スペシャルレギュレーションにいくつかの変更点があるので後で報告書を出す。

ORC については小林昇氏より後で報告して頂く。

オフショアワールドは毎年やることになっている。

オセアニックコミッティーで、L30 のクラスを認める決議が出されたが否決され、L30 が採用されることはなくなった。

2, 3 週間頂いて報告書を提出する。

④ 第 16 回全国外洋加盟団体長会議（1 月 30 日）企画案

大村常務理事より 2021 年度と 2022 年度の会議の日程表が資料で説明され、来年 1 月 30 日の全国外洋加盟団体長会議は WEB との併用で開催し、会場はオリンピックスクエアで、議題は外洋系の新年度の方針等と委員会からの報告を予定する事、外洋常任委員会の日程は従来通りに理事会の前日と団体長会議の前週に開催し、理事会の前日はハイブリッドで、団体長会議の前週は WEB で開催すること及び、JSAF 代表者会議の後の新年会は中止されることが説明された。

⑤ 各専門委員会・小委員会からの報告

・外洋計測委員会

川合：IRC、ORC それぞれのレーティングオフィスが証書を発行してきたが、経費削減のために発行業務を一つにまとめることにした。

証書の申し込み方法も統一し、料金は今検討中である。

現在 ORC 証書のみ艇が 18 艇。これを機に IRC 証書を取得してもらい、フリートの規模を大きくして、ハイレベル、安全、公平、公正なヨットレース活動の支援としたい。

デュアルスコアリングは継続して行っていく。

それに伴いホームページも一つに纏める。

大村：ユーザーから見て申し込みは一本か？

川合：その通り。

鈴木（一）：世界の流れは IRC から ORC に傾いている。証書は IRC が約 3, 700 に対して ORC は 1 万を越している。アメリカとカナダは IRC のフリートが無くなっている。

ORC の計測技術無くさない方向でお願いしたい。

平松：証書の発行価格は上がるのか？

川合：IRC は同じ。過去 IRC を所持したことの無い艇で、ORC の更新を条件に IRC 取得新規料金を 30%OFF にする。今協議しているが ORC のみの場合は少し高くなると思う。

新田：ORCi の計測の場合も含めて普及させていく方針か？

川合：現在 IRC のメジャラーは大勢いるが ORC のメジャラーは一人しかいない。メジャラーを育成して ORCi も隨時できるようにしたいと考えている。

中澤：ORC の委員の方からの意見として予算が少ないことが上がっていたので予算を調整してもらいたい。

川合：了解した。

- ・外洋安全委員会

平出：本日報告することはない。

- ・レースマネージメント委員会外洋小委員会

松石：明日、明後日仙台で全国レースマネージメント委員会が開催される。

今のレースオフィサー制度はディンギー中心になっているので、外洋小委員会としては外洋に特化した制度ができるように提案する。

- ・ルール委員会外洋規則小委員会

日下部：12月11日に委員会が開催されるが、この場での報告事項は無い。

- ・キールボート強化委員会

金子：2022年7月のニューヨークヨットクラブで行われるレースにエントリーした。今後参加チームを選考する。

毎年3月に開催されている学生マッチレースは、今年はコロナで中止したが来年は開催する。

- ・ジャパンカップ委員会

服部委員長よりメールで以下の報告があった。

ジャパンカップの復活については需要調査の途中で止まっている。潜在ニーズがあるところまでは確認しているので、今後深堀していく。

- ・サバイバルトレーニング

大村：6月に予定していたサバイバルトレーニングを1月に2回開催することになった。各10名で募集したが定員をオーバーしてキャンセル待ちが出ている状況であるので定員を増やせるように調整している。

北九州で資料のとおり開催する。来年以降も年に1回以上開催したい。

⑥ 調査・検討チームの検討状況

大村：通信の基礎的な調査をしている。現在運用している4局の海岸局に加入している船舶局を調べている。

5年毎の更新の際に請求書を出せるようにしたい。

次のステップとして廃局になった局の船舶局の加入艇についても調査する。

JCI の調査研究についても整理している

提案した研究項目は、引き続き持ち運び式双方向無線電話装置、小型船用膨張式救命いかだの装備品、汽笛及び音響信号器具の 3 項目である。皆さんから疑問と要望があれば、纏めていきたい。

このほか、JCI と直接意見交換の場を作ることを考えている。

過去 JSAF から JCI の評議員を出しているが、大坪安全委員長が今年度末で委員長を退任するので、JCI の評議員を鈴木保夫さんに交代する。

岩瀬：9 月の常任委員会で提案したテーマのチーム作りは個々に相談しているがどのように作ったら良いか分からないので改めて相談したい。

橘田：マッチングはまだ進めていないので後日相談したい。

⑦ 各地域の報告（レース、イベント開催状況、コロナ対策等含む）

・北海道東北水域

菊池：北の方は寒くなってきたが、いわきでは何艇かあるところでセーリング行われている。来年から動きだせるマリナーが出てきそう。私自身スポーツ協会のコーチングの講習会を受講しているが、殆どがディンギーでクルーザーのことが反映されていない。今後クルーザーも取り入れられてしかるべきと考えている。

・関東水域

新田：関東水域では外洋が主催するレースはことごとくできなかった。

その中で外洋三浦が主催する小網代カップレースが開催された。

クラブレースは夫々のクラブが実施している。

現在 2022 年のレーススケジュールの調整が関東 4 団体で始められている。

平松：11 月 6 日に小網代カップを久しぶりに開催したが、10 数艇の参加があり、例年より多かったがコロナでレースが開催されなかった反動と思われる。

シーボニアレガッタが行われ、ハイパフォーマンス、IRC 合計で 14 艇の参加で 6 レースが無事に終わった。

来年のミドルボートの開催場所を検討しているが、和歌山で開催の可能性がある。

・中部水域

岩瀬：オータムシリーズは 15 艇で実施できたが、その他のレースそのものは少なかった。

坂谷：来年の沖縄―東海レースは 4 月 29 日スタートで準備に入っている。何事も

なければ予定通りやりたい。パールレース等も来年は予定通りやりたい。

・関西水域

安田：10月に西宮でKYCのオータムレガッタがあった。IRC6艇、ホワイトクラス15艇の参加があった。

来年は5月28日、29日に関西ミドルボートが予定されている。

前回の外洋常任委員会でジャパンカップを9月にやりたいとの話があったが、本当にやるのかその情報を知りたい。

中村（和）：島精機カップが予定通り開催され、IRC15艇、OPENが35艇の計50艇が参加した。

和歌山カップを明日、明後日と開催するが、参加者は若い人が殆どである。

来年も和歌山は予定通り開催したい。

・九州沖縄水域

宇都：沖縄はクラブレースが出来ていない状況。

玄海はクラブレースをぼつぼつ再開していると聞いている。

南九州ではクラブレースは、海上に集合、解散で感染リスクが無いと考え、毎月クラブレースができています。

種子島レース、三島レース、火山島巡りレースは感染状況次第ではあるが来年は開催したいと考え準備を進めている。

⑧ 明日12月4日の理事会について

大村常務理事より、理事会の審議内容について「2021年度通常第3回理事会議題」に基づき、役員候補者推薦管理委員会の設置についてや、定期表彰者、中長期戦略（強化計画）等について説明がなされた。

⑨ その他

・テーマに対しての検討の進め方について以下のような意見が出された。

橘田：マッチングアプリの作成は一人でやるのが難しく、今後どのように進めたら良いか悩んでいる。

大村：難しく考えなくても良い。

橘田：時間的な問題もあり、筆頭に立って引き受けるのは難しいと考える。

大村：橘田さんの思いを次の外洋常任委員会までに示して頂ければ良いと思う。

岩瀬：自分も理事になって1年半だが、物事の動かし方が良く分からない。

2人とか5人のチームを作らないといけないのではないかと思う。

大村：提案者が仲間を作って検討していけば良いと考える。

岩瀬：打ち合わせをするときの会場代とこの経費は計上することが出来るか？

大村：今はそのような制度が無いのでできないが、検討が進んでくれば、外洋常任委員会で予算が認められると思う。

最初は思いのある方が企画を作らないと動かないのでこのような場を出して頂き、皆で知恵を出して進めていきたい。

- ・平松理事より、2022 年 JSAF カレンダーの紹介及びニューヨークヨットクラブのインビテーションナルカップの選考の案内についての質問がなされ、金子キールボート強化委員長より、これから委員会で選考方法を検討して JSAF ホームページ上に案内することの説明がなされた。

- ・大村常務理事より、以下の 2 点について提案及び説明がなされた。

①1 月 20 日開催予定であった外洋常任委員会を 19 日に変更し、開催方法は WEB のみにすることが提案され出席者全員が賛同した。

②酒呑童子の斎藤実氏が文部大臣賞を受賞した。

オーシャンレースで高齢者が頑張っているので、今後表彰することによって外洋ヨットが世間から注目を浴びるようになれば良い。

- ・閉会の挨拶

中澤副会長：本日は 8 時まで長時間にわたりお疲れ様でした。必要であれば常任委員会以外でも時間を作る。今後も宜しくお願いします。

以上